



信仰の元の理解と生き方に戻りましょう！

ペンケレシ神父

教会の初めの時代、500年の頃まで、ミサは日曜日だけでした。けれども、水曜日と金曜日の晩に聖書集会がありました。旧約聖書から2～3箇所、新約聖書は2箇所でした。聖書が章に分かれておらず（1227年より）、聖書の箇所を長く読み、説明されて、詩篇を歌いました。そして前回読んだ箇所の続きを読み、聖書全体を順番に読みました（通読）。

結局、初代の信者は、神の言葉を知ることがそれほど大切にして、それに時間をかけていました。聖書を通して、神を深く知ることが求めました。儀式が少なく、神の言葉によって信仰が絶えず新たにされ、ミサと祈りは習慣的になりません。ミサで旧・新約の数箇所が長く読まれ、奉献文の長い賛美と感謝を捧げるので、荘厳に行われました。以上のことは歴史で分かっている事実です。（「初めから...信仰の理解と生き方」163頁参照）

現在、住吉教会では毎週火曜日と金曜日にミサが行われ、日曜日（主日）のミサは1時間位と短く、信者が聖書を読んでも順番に全体を読むことがあまりなく、決まった祈りを繰り返して唱えるのです。その結果、神を深く知っておらず、ミサなどは習慣的になりがちです。ミサはどこまで、復活されたキリストとの深い出会いになっているのでしょうか。また、聖霊はどこまで心と生活を導く存在となっているのでしょうか。

結局、私たちが伝えられた信仰は初めからの信仰とずいぶん違います。しかし信仰の本当のあり方は初めからの信仰です。使徒たちから直接に受け継がれた信仰！

今、四旬節中です。神の望みに合わないと感じている悪い心と生活を正す季節です。しかし自分の中にある罪に度々気がつきません。そのために、初代教会の時代から四旬節は神の言葉を特別に読む季節です。神の言葉は、隠れている罪を暴くのです！それを悔い改めたら、自分全体は奥底まで清められます。私はそれを体験しました。

だから、聖書を本格的に毎日読みましょう。今後一生涯、毎日神の言葉を読む決断をする、恵みの時です。旧約聖書は創世記からと、預言者エレミヤから、新約聖書1章以上！神と共に過ごす時間を作り、聖霊が心を照らして歩むべき道を示し、その道を歩む力を願いましょう。そして食事、娯楽などを減らして自分の悪い心に打ち勝つ力を身につけましょう。また生活に困っている人、特に世界の難民のために献金しましょう。

ご自分を捨てて十字架につけられ、復活されたイエスの命により深く預かるように！